



今年もコロナ禍にあり、終息の兆しもない中、ロシアのウクライナ侵攻が始まりました。暴力の嵐、闇の暗さに悲しみと恐れを覚えます。安倍晋三元首相が銃撃を受け、殺害されるという、驚愕すべき事件が起き、その背後に元首相が深い関わりを持ったというカルト教団の暗躍が暴露されました。けれどもその真相、実態も不明瞭なまま年が暮れようとしています。

重苦しい日々が続いていますが、私たちは平和と真実を祈り求めながらクリスマスを祝っています。

ドイツの友人イネスさんがクリスマスカードを送って下さいました。カードの扉には「神の子が人となられた。それゆえに人が神の中に家を持った ヒルデガード フォン ビンゲン」と記されています。ヒルデガードとは、初めて聞く名前でしたので、さっそく調べてみました。ヒルデガード(1098－1179)は中世ドイツの貴族の家に生まれ、ベネディクト会系女子修道院長となりました。神秘家ですが、神学者、説教者でもあります。そのほかに、作曲家、作家、言語学者、詩人である上に、ドイツ薬草学の祖とされているとのこと。非常に知的、霊的、実際的能力を持った宗教家だと思います。中世ヨーロッパの最大の賢女とも言われているそうです。薬剤師であり、ルーテル教会の説教者の資格を持つイネスさんが尊敬するのも無理からぬことです。

カードの扉に記されたヒルデガードの言葉は詩的でもあり、神学的でもあり、しかも平安、喜びに満ちた言葉です。中の絵は中世画家の祭壇画ですが、キリスト降誕を礼拝している三人の賢者、羊飼いのほかに、青い服を着た背の高い女性の姿も描かれています。これがヒルデガードかもしれません。彼女は幼いころから幻視体験をしています。40歳ころに書いた自著『道を知れ』のなかで、彼女は正常な覚醒状態で幻視体験をし、それを VISIO (英: ヴィジョン) という言葉で表現しているとのこと。

「生き生きした光の影」が現れ、その光の中に様々な様相が形となって浮かび上がり輝く。炎のように言葉が彼女に伝わり、また見た物の意味付けは一瞬にしてなされ、長く、長く記憶に留まる。また別の「生ける光」(Lux vivens) がその中に現れる事があるが、それを見ると苦悩や悲しみがすべて彼女から去ってしまい、気持ち若返る。」と記しているとのこと。『道を知れ』の挿絵「三位一体」(右)はまさに彼女の受けた啓示、彼女のヴィジョンを見える形で鮮やかに示したのではないのでしょうか。



彼女は教会に強く愛着を示し、「教会は神と一体であり、我々はその愛情に包まれている」と述べたと言います。私もヒルデガードのようにヴィジョンを明瞭に示されたい、そしてそれをはっきりと見て、それに生かされて、若々しくなりたいと願わずにられません。



今年もクリスマスという節目に家族が集まって共に楽しい時が与えられました。フクシマ、辺野古、コロナ、ウクライナでの戦争、カルト教団など、問題山積みのままですが、世界中のすべての人が、ささやかでも平和な喜びを持てるように祈り続けたいと願っています。